

## 7. 地震

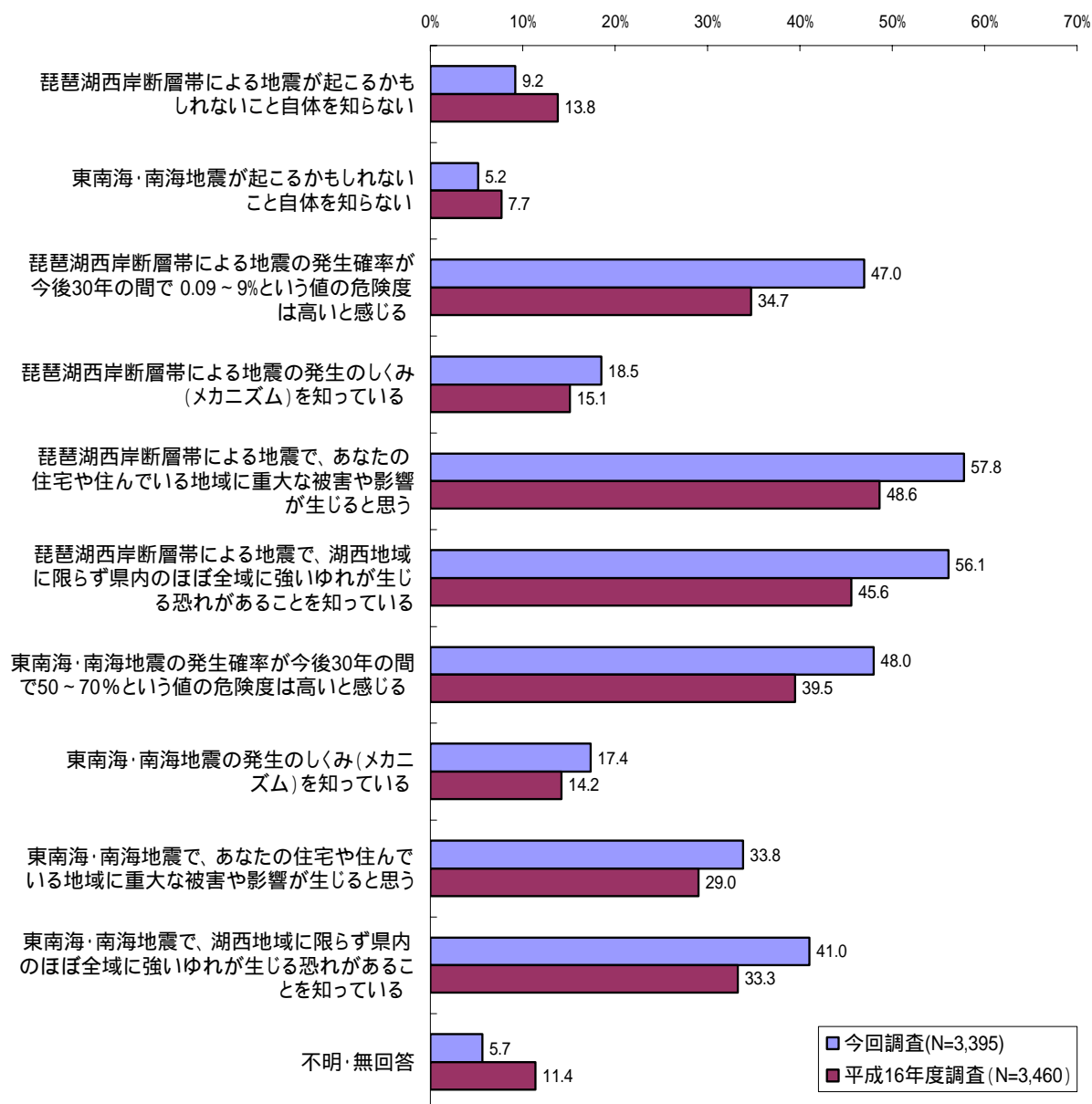
### (1) 琵琶湖西岸断層帯による地震と東南海・南海地震

問 26 琵琶湖西岸断層帯による地震と東南海・南海地震について当てはまるを次から選んでください。(はいくつでも)

**琵琶湖西岸断層帯による地震と東南海・南海地震については、「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」が 57.8%**

琵琶湖西岸断層帯による地震と東南海・南海地震については、「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」が 57.8%で最も多く、次いで「琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている」(56.1%)、「東南海・南海地震の発生確率が今後 30 年の間で 50%～70%という値の危険度は高いと感じる」(48.0%)、「琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後 30 年の間で 0.09～9%という値の危険度は高いと感じる」(47.0%)と続いている。

平成 16 年度調査と比較すると、「琵琶湖西岸断層帯による地震がおこるかもしれないこと自体を知らない」、「東南海・南海地震がおこるかもしれないこと自体を知らない」を除く全ての項目において割合が高くなっている。



## 【地域別】

大津・湖南・湖西地域では、「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」が、甲賀・東近江・湖東・湖北地域では、「琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている」が最も多くなっている。また、湖東地域では「東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる」が2位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N = 816)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている
	72.1%	57.6%	54.7%	50.7%	40.7%
湖南地域 (N = 736)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている
	64.1%	59.5%	50.5%	50.0%	41.3%
甲賀地域 (N = 276)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる
	55.8%	49.3%	44.9%	44.9%	42.8%
東近江地域 (N = 640)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている
	55.0%	45.3%	42.8%	40.6%	38.8%
湖東地域 (N = 364)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる
	47.8%	46.7%	44.5%	42.3%	37.4%
湖北地域 (N = 404)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる
	53.5%	50.0%	45.0%	43.6%	43.1%
湖西地域 (N = 158)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている
	77.8%	63.9%	58.9%	51.3%	34.8%

## 【性別】

男女ともに1位・2位がそれぞれ「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」と、「琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている」で、55.0%を超える割合になっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,643)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている
	59.0%	57.3%	49.8%	48.6%	43.3%
女性 (N=1,669)	琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う	琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている	東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50%～70%という値の危険度は高いと感じる	琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる	東南海・南海地震で、県内各地を含め国内の広い範囲に大きなゆれと重大な被害が生じるおそれがあることを知っている
	57.0%	55.1%	47.9%	44.5%	38.6%

## 【性・年代別】

男性の20～40歳代、女性の20・40歳代、70歳以上では「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」が、男性の50歳以上、女性の50歳代、70歳以上では「琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている」が、女性の30歳代では「東南海・南海地震の発生確率が今後30年の間で50～70%という値の危険度は高いと感じる」が、女性の60歳代では「琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率が今後30年の間で0.09～9%という値の危険度は高いと感じる」が最も多くなっている。

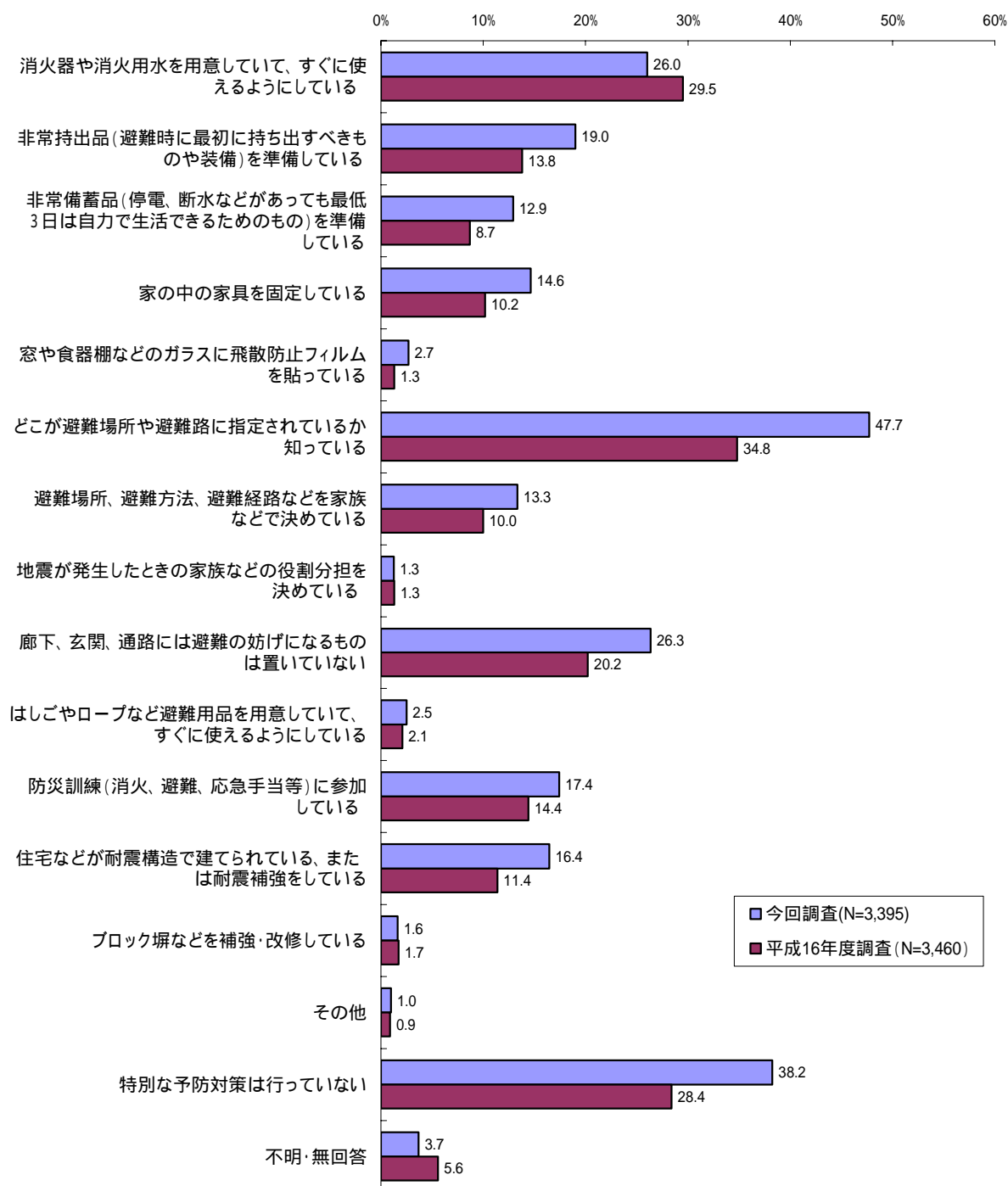
## (2) 地震に対する予防対策

問27 あなたのお宅では地震が発生した場合に備え、日頃から何らかの予防対策を行っていますか。(はいいくつでも)

**地震に対する、日頃からの予防対策は「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が47.7%**

地震が発生した場合に対しての、日頃からの予防対策については、「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が最も多く47.7%で、次いで「特別な予防対策は行っていない」が38.2%、「廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない」が26.3%、「消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている」が26.0%となっている。

平成16年度調査と比較すると、「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」では12.9ポイント、「特別な予防対策は行っていない」が9.8ポイント高くなっている。



## 【地域別】

湖西地域を除くすべての地域で、「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が1位、「特別な予防対策は行っていない」が2位となっている。また、湖南地域では「住宅などが耐震構造で建てられている、または耐震補強をしている」が、湖東地域では「防災訓練（消火、避難、応急手当等）に参加している」が5位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N = 816)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	非常持出品（避難時に最初に持ち出すべきものや装備）を準備している
	51.5%	36.5%	28.9%	23.5%	21.6%
湖南地域 (N = 736)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	住宅などが耐震構造で建てられている、または耐震補強をしている
	50.0%	36.4%	27.2%	25.0%	20.1%
甲賀地域 (N = 276)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	避難場所、避難方法、避難経路などを家族などで決めている
	40.6%	39.9%	33.3%	32.6%	18.1%
東近江地域 (N = 640)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	非常持出品（避難時に最初に持ち出すべきものや装備）を準備している
	45.9%	44.1%	29.4%	27.2%	18.8%
湖東地域 (N = 364)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	防災訓練（消火、避難、応急手当等）に参加している
	46.7%	35.7%	24.7%	22.5%	17.6%
湖北地域 (N = 404)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	非常持出品（避難時に最初に持ち出すべきものや装備）を準備している	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない
	48.5%	36.1%	25.7%	21.8%	19.3%
湖西地域 (N = 158)	特別な予防対策は行っていない	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	非常持出品（避難時に最初に持ち出すべきものや装備）を準備している
	40.5%	38.0%	22.2%	20.3%	18.4%

## 【性別】

男女とも1位は「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」、2位は「特別な予防対策は行っていない」となっている。1位の「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」では女性のほうが男性に比べ10.7ポイント高くなっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,643)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	非常持出品（避難時に最初に持ち出すべきものや装備）を準備している
	42.4%	40.5%	26.7%	23.8%	18.5%
女性 (N=1,669)	どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている	特別な予防対策は行っていない	廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない	消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている	非常持出品（避難時に最初に持ち出すべきものや装備）を準備している
	53.1%	36.5%	29.0%	24.7%	19.5%

## 【性・年代別】

男性の40歳以上と女性の30歳以上では「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が、男性の20・30歳代、女性の20歳代では「特別な予防対策は行っていない」が最も多くなっている。また、年代が高くなるにつれ、男性では「消火器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている」が、女性では「廊下・玄関・通路には避難の妨げになるものは置いていない」の割合が高くなる傾向となっている。

### (3) 自主防災活動

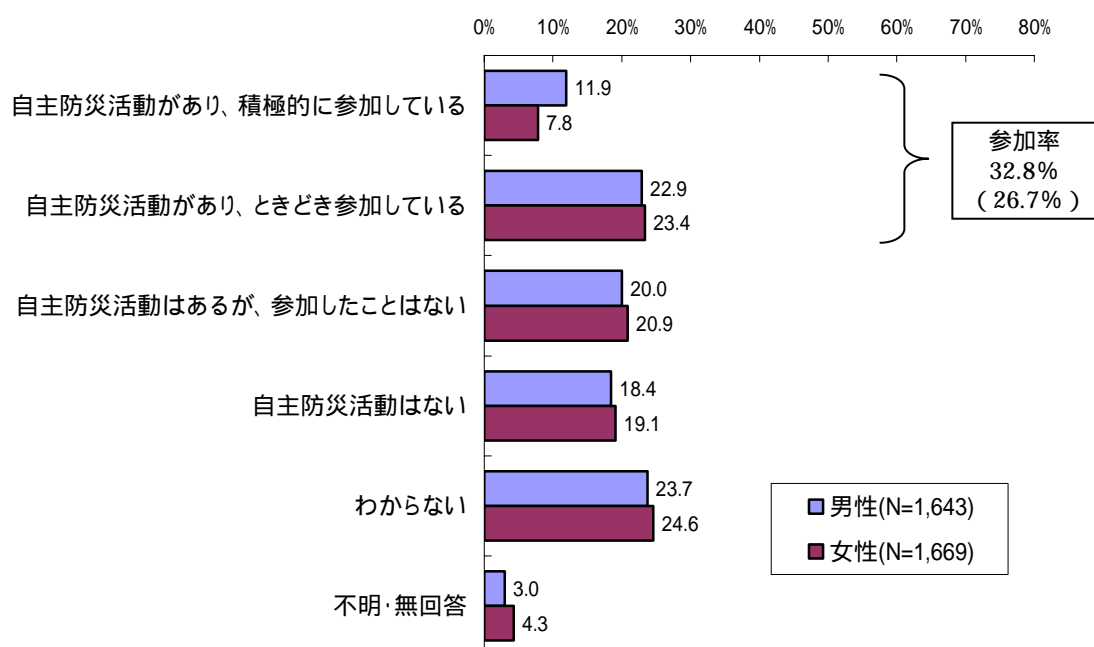
#### ①自主防災活動の有無と参加頻度

問28 町内会や自治会等で、消防団とは別に住民の自主的な防災活動が行われていることがありますが、あなたがお住まいの地域はいかがですか。( は1つだけ)

#### 住民の自主的な防災活動が、自分の居住地域であるかどうかは「わからない」が23.9%

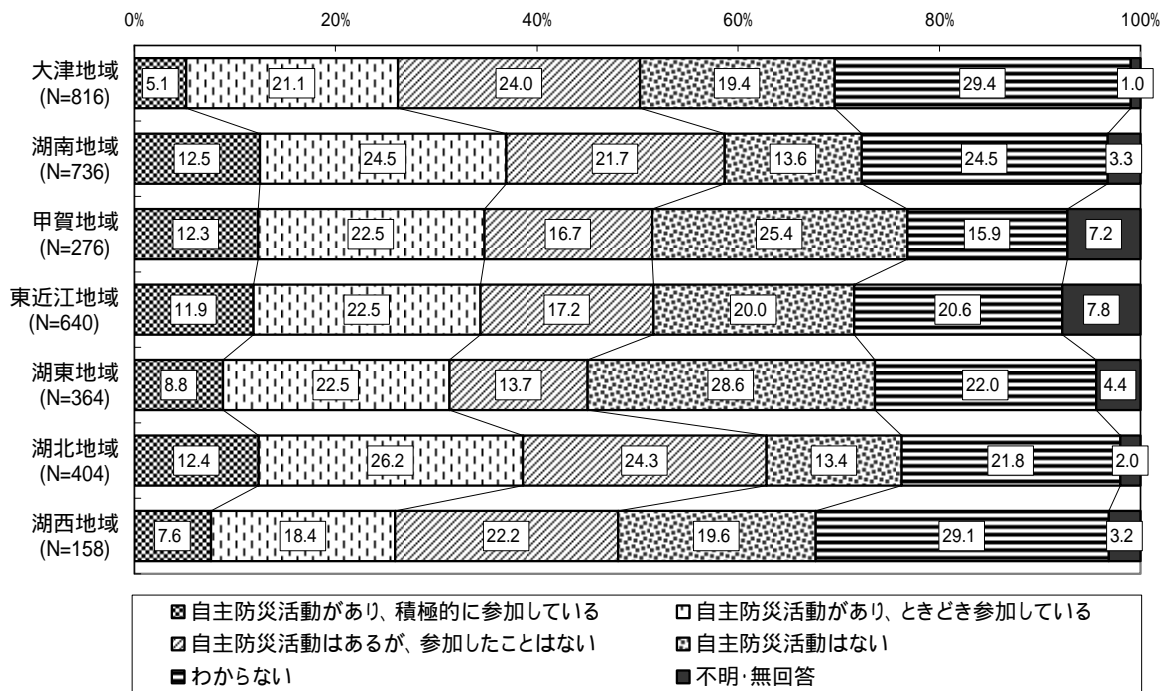
自主防災活動の有無と参加頻度については、「わからない」が最も多く23.9%、次いで「自主防災活動があり、ときどき参加している」が22.9%、「自主防災活動はあるが、参加したことはない」が20.5%となっている。

平成16年度調査と比較すると、『参加率』(「自主防災活動があり、積極的に参加している」と「自主防災活動があり、ときどき参加している」の合計)は6.1ポイント高くなっており、「わからない」は4.8ポイント低下している。



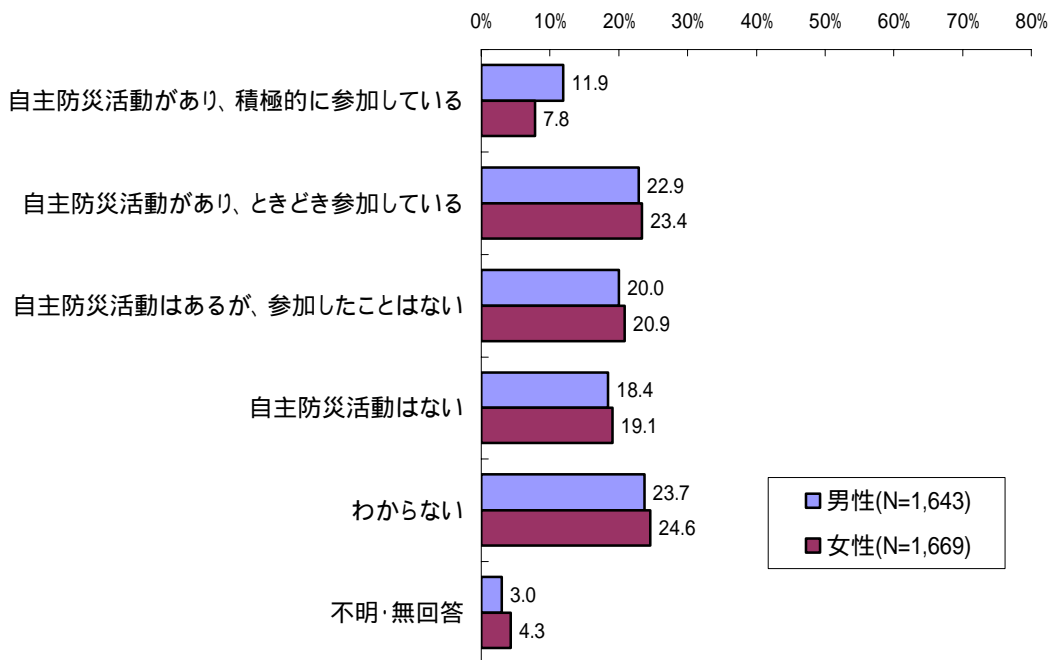
#### 【地域別】

大津・湖西地域では「わからない」が、甲賀・湖東地域では「自主防災活動はない」が、東近江・湖北地域では「自主防災活動があり、ときどき参加している」がそれぞれ最も多くなっている。湖南地域では「自主防災活動があり、ときどき参加している」と「わからない」が同率で最も多くなっている。また『参加率』では湖北地域が最も高く、次いで湖南、甲賀地域と続いている。



### 【性別】

男女ともに「わからない」が最も多く、次いで「自主防災活動があり、ときどき参加している」、「自主防災活動はあるが、参加したことはない」と続いている。



### 【性・年代別】

男性の20～40歳代と女性の20・30歳代では「わからない」が最も多く、男性の50歳以上、女性の40～60歳代では「自主防災活動があり、ときどき参加している」が最も多くなっている。女性の70歳以上では「自主防災活動があり、積極的に参加している」、「自主防災活動はない」および「わからない」が同率で最も多くなっている。

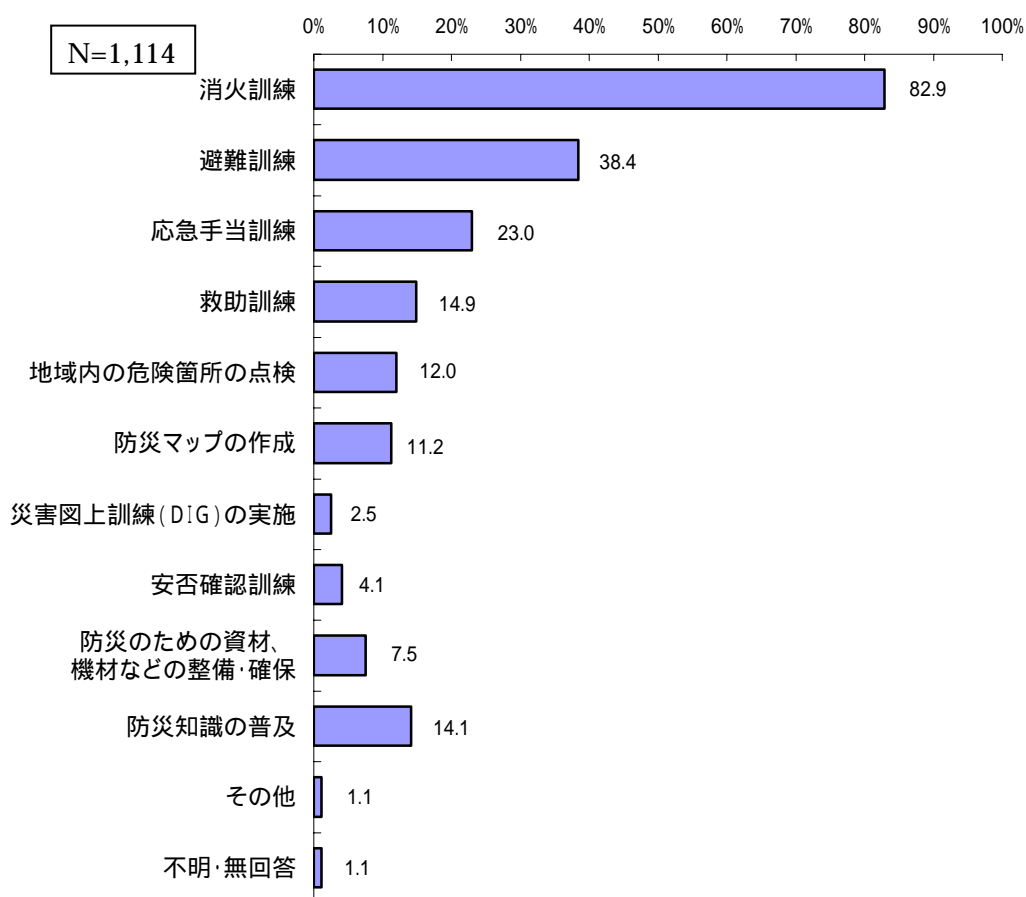


## 自主防災活動の活動内容

付問1 問28で「1」または「2」と回答された方におたずねします。その活動内容を次から選んでください。(はいいくつでも)

### 自主防災活動の活動内容は、「消火訓練」が82.9%

地域の自主防災活動の内容については、「消火訓練」が最も多く82.9%。次いで「避難訓練」が38.4%、「応急手当訓練」が23.0%となっている。



### 【地域別】

いずれの地域においても1位は「消火訓練」、2位は「避難訓練」となっている。また、東近江地域では「地域内の危険箇所の点検」、湖西地域では「防災知識の普及」が3位となっており、その他の地域では「応急手当訓練」となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N=214)	消火訓練	避難訓練	応急手当訓練	救助訓練	防災知識の普及
	84.1%	43.9%	31.8%	18.7%	14.0%
湖南地域 (N=272)	消火訓練	避難訓練	応急手当訓練	救助訓練	防災マップの作成
	83.8%	38.2%	24.3%	22.1%	16.2%
東近江地域 (N=220)	消火訓練	避難訓練	地域内の危険箇所の点検	応急手当訓練	救助訓練
	89.6%	31.3%	18.8%	12.5%	12.5%
東近江地域 (N=640)	消火訓練	避難訓練	応急手当訓練	地域内の危険箇所の点検	防災知識の普及
	86.4%	40.0%	21.8%	19.1%	16.4%
湖東地域 (N=114)	消火訓練	避難訓練	応急手当訓練	救助訓練	防災知識の普及
	80.7%	35.1%	21.1%	17.5%	15.8%
湖北地域 (N=156)	消火訓練	避難訓練	応急手当訓練	防災知識の普及	地域内の危険箇所の点検
	75.6%	34.6%	21.8%	11.5%	7.7%
湖西地域 (N=41)	消火訓練	避難訓練	防災知識の普及	応急手当訓練	救助訓練
	68.3%	41.5%	12.2%	9.8%	9.8%

### 【性別】

男女ともに1位は「消火訓練」、2位は「避難訓練」、3位は「応急手当訓練」となっており、「避難訓練」は男性のほうが4.8ポイント高くなっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=572)	消火訓練	避難訓練	応急手当訓練	防災知識の普及	救助訓練
	82.9%	40.4%	25.0%	16.3%	16.1%
女性 (N=520)	消火訓練	避難訓練	応急手当訓練	救助訓練	防災知識の普及
	82.5%	35.6%	21.0%	13.5%	11.9%

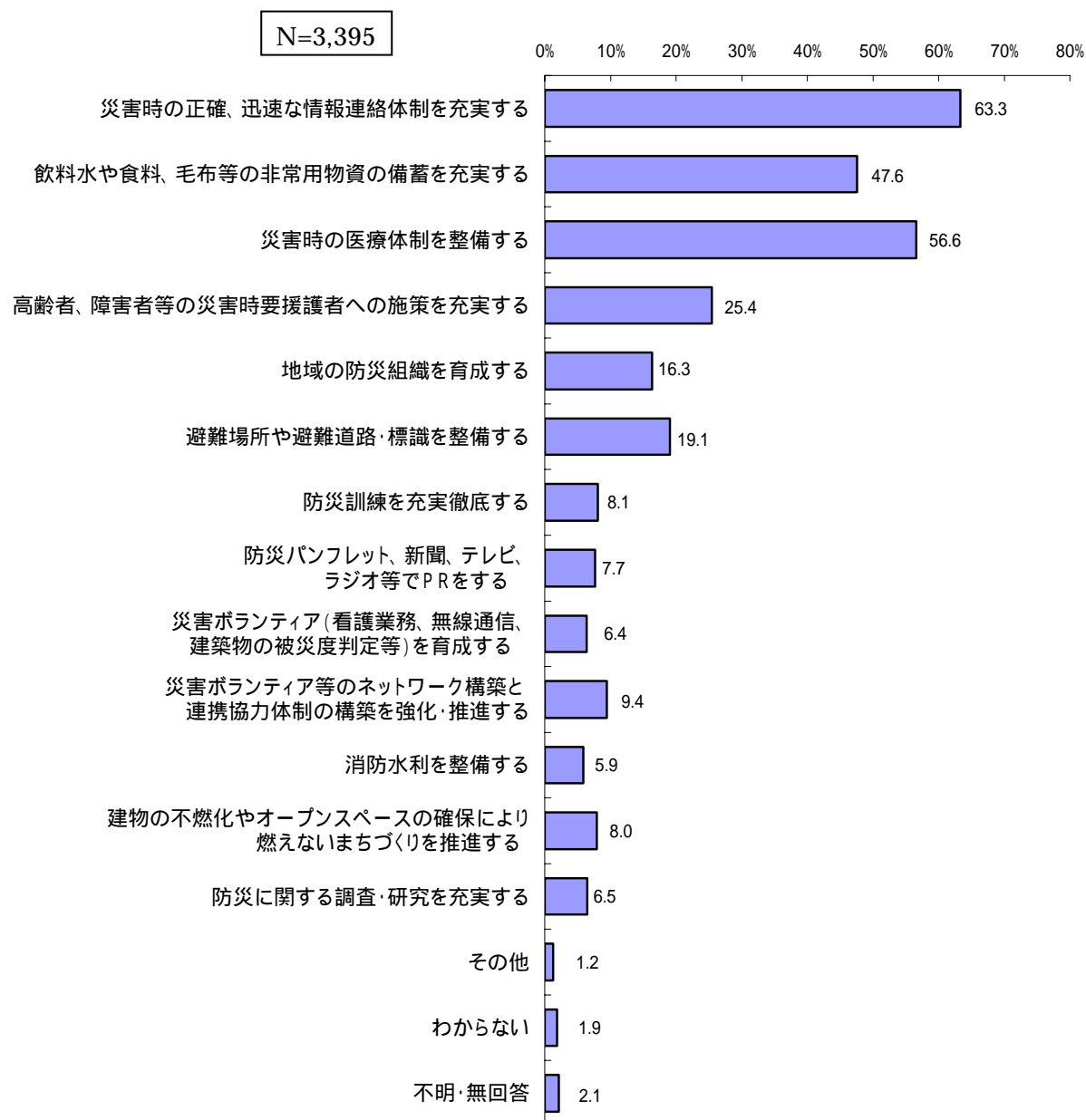
### 【性・年代別】

男女ともすべての年代において「消火訓練」が最も多く、男性では70歳以上の87.5%、女性では60歳代の86.6%が最も高くなっている。「避難訓練」では男女ともに20歳代が最も多く、6割を超えている。

#### (4) 県が重視すべき防災対策

問 29 あなたは県が特に重点をおいて進めるべき防災対策は何だとお考えですか。この中から 3 つ選んでください。

県が重点的に進めるべき防災対策は、「災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が 63.3%。県が重点をおいて進めるべき防災対策については、「災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が最も多く 63.3%、次いで「災害時の医療体制を整備する」が 56.6%、「飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する」が 47.6%となっている。



#### 【地域別】

湖西地域を除くすべての地域では「災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が 1 位、「災害時の医療体制を整備する」が 2 位となっている。また、いずれの地域においても「飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する」が 3 位となっている。湖西地域では、他の地域と比べ 1 位と 2 位が入れ替わっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N = 816)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	避難場所や避難道路・標識を整備する
	64.5%	61.3%	48.3%	24.0%	22.1%
湖南地域 (N = 736)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	避難場所や避難道路・標識を整備する
	62.5%	54.9%	54.1%	28.5%	18.2%
甲賀地域 (N = 276)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	地域の防災組織を育成する
	64.5%	56.5%	40.6%	23.2%	19.6%
東近江地域 (N = 640)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	避難場所や避難道路・標識を整備する
	63.4%	53.1%	41.9%	28.4%	19.4%
湖東地域 (N = 364)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	地域の防災組織を育成する
	58.8%	53.3%	49.5%	24.2%	19.8%
湖北地域 (N = 404)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	地域の防災組織を育成する
	67.3%	55.0%	47.5%	22.8%	17.3%
湖西地域 (N = 158)	災害時の医療体制を整備する	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	地域の防災組織を育成する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する
	67.1%	58.9%	45.6%	20.9%	20.3%

### 【性別】

男女ともに1位から5位までの項目は同じになっており、女性のほうがポイントが高くなっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,643)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	避難場所や避難道路・標識を整備する
	61.5%	55.4%	46.9%	25.0%	18.7%
女性 (N=1,669)	災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する	災害時の医療体制を整備する	飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する	高齢者、障害者等の災害時要援護者への施策を充実する	避難場所や避難道路・標識を整備する
	65.7%	58.0%	48.4%	25.5%	19.7%

### 【性・年代別】

男女ともに40歳以上では「災害時の正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が、男性の30歳代、女性の20・30歳代では「災害時の医療体制を整備する」が、男性の20歳代では「飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する」が最も多くなっている。